

1 学習指導と評価の改善・充実

(1) 学習指導と評価の改善・充実の視点

公民科においては、社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方を深めることができるようにすることや、現代社会の諸課題と人間としての在り方生き方について考える力を一層養うことが求められている。そのため、公民科の学習指導においては、各科目の特質を生かして学習内容を厳選するとともに、学び方を学ぶ学習や課題解決的な学習を一層充実させ、知識の習得や技能の習熟などに加え、思考力・判断力・表現力等の能力を育成することが大切である。また、評価については、観点別学習状況の評価を基本として、学習指導要領に示された目標に照らして、その実現状況をみる評価を一層重視するとともに、指導と評価の一体化を図り、評価の結果をその後の指導の改善に生かすことが重要である。

(2) 各種調査結果からみた現状と課題

ア 平成15年度高等学校教育課程実施状況調査結果（国立教育政策研究所平成17年1月）の特色と指導上の改善点（www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h15_h/index.htm）

	調査結果の特色	指導上の改善点
現代社会	国際社会と人類の課題の内容に関して、国際法などの基本的な事項や概念が十分に定着していないと考えられる。 表やグラフなどの複数の資料から有用な情報を読み取り表現する力が不足していると考えられる。 身近な事例と関連付けた問題は、通過率が設定通過率を上回る傾向がみられた。 「民主社会の倫理」や「環境と生活」に関する問題については、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題が多い。	国際政治をとらえる基本的な概念である主権や国際法等について、具体的な事例を取り上げて理解させるとともに、東西冷戦などの歴史的な背景を踏まえた指導が大切である。 内容の異なる複数の資料からそれぞれ有用な情報を読み取らせ、それぞれの情報の関連を議論させたり、文章にまとめさせるなどの指導の工夫・改善が重要である。 生徒に現代社会に対する興味をもたせるため、新聞やインターネットなどを活用して時事的な話題を授業で扱ったり、作業的・体験的な学習を取り入れたりとすることが大切である。
倫理	人間としての在り方生き方や自己の生き方と関連付けられた知識が不十分であると考えられる。 複数の資料を多面的・多角的に考察することによって、原因や社会的背景を考えるとともに、課題を見出し、自己の生き方について探求する力が十分身に付いていない。 先哲の基本的な考えを手掛かりとして、人間としての在り方生き方や自己の生き方について考える問題は、通過率が設定通過率を下回るものが多い。 人間としての在り方生き方や自己の生き方と関連付けられた知識・理解が不十分であると考えられる。 「日本の風土と日本人の考え方」に関する問題については、すべての問題において通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる状況にある。	生徒が自己の人格形成とともに社会の一員としての自己の生き方という視点からも学習内容を自己の生き方と関連付けながら主体的に追究していけるような指導の改善が必要である。 先哲の思想に関する学習については、網羅的に取り上げるのではなく、視点を明確にし、倫理的課題に対して先哲がどのように考えたかを自己の生活や生き方と関連付けて考えさせることが重要である。 生徒が倫理の学習に興味を持ち、倫理的課題を自ら見だし、人間としての在り方生き方について主体的に探求を深められるよう、インターネットや学校図書館などを活用した授業、観察や調査・見学・体験を取り入れた授業、調べたことを発表させる活動を取り入れた授業などを工夫することが大切である。
政治・経済	インフレーションなど、政治や経済についての基本的な概念が十分に身に付いていないと考えられる。 国際社会の諸問題を総合的にとらえる問題や司法に関する問題について、通過率が設定通過率を下回る傾向が見られる。 時事的な出来事や身近な事例を取り上げた問題は通過率が設定通過率を上回る傾向が見られる。 「経済生活に関する諸課題」については通過率が同程度以上と考えられる。	時事的な話題を取り扱ったり、理論と現実の相互関連について十分配慮したりして、生徒の関心を高めさせる授業の工夫・改善が求められる。また、基本的な概念を身に付けさせるためには、具体的な事例を取り上げたり、歴史的な背景を示したりしながら、理解を深めさせる指導が重要である。 国際社会の諸問題について、政治と経済を関連させて総合的にとらえさせる指導が重要である。 司法に関する内容については、裁判所の機構や裁判の手続きなどを詳細に学習させるような指導をするのではなく、国民の権利を保障する裁判制度の基本的な考え方を理解させるといった観点から、取り扱うことが重要である。

設定通過率 = 学習指導要領について標準的な学習活動が行われたと想定した場合の正答、準正答の割合。実際の通過率がこの割合と比較して同程度以上であれば、想定された学習活動が実現していると判断される。

イ O C E D 生徒の学習到達度調査（P I S A）の結果から見た課題（総則1ページ参照）

2003年の調査では、資料を活用して事実や意味を読み取り、自分なりに解釈し、判断・評価する力や自分の考えを表現する力が十分ではないことが明らかになっている。この点については、従前から公民科においても育むべき重要な資質能力とされて

おり、課題追究的な学習を積極的に行うなどして、適切に情報を収集、選択、処理する資料活用能力や自ら考え判断する力、表現する力などを育成することが大切である。

(3) 学習指導と評価の改善・充実の方向性

ア 基礎的・基本的な知識・概念を身に付けさせる指導の工夫

具体的な事例と概念を関連付けさせたり、身近な事例のもつ社会的意味をとらえさせる指導などを行い、基礎的・基本的な知識や概念を身に付けさせる学習指導の充実を図る。

イ 主体的に学習しようとする意欲や、諸資料から有用な情報を読み取り、それらを表現する能力を育てる指導の一層の工夫

学び方や調べ方を身に付けさせる学習を指導計画に明確に位置付け、その中で、多くの資料から有用な情報を活用したり、課題に応じて調査を行ったりするなど課題解決的な学習を展開するとともに、追究の過程や結果を適切に表現させる学習指導の充実を図る。

ウ 観点別学習状況の評価を基本とした目標に準拠した評価とペーパーテストの工夫・改善

評価においては、生徒一人一人のよい点や学習の到達の状況などを適切に把握するため、観点別学習状況の評価における4つの観点を基本として、目標に準拠した評価を一層重視する。

さらに、学習の成果を、「知識・理解」だけでなく、「思考・判断」や「資料活用」の技能・表現などの観点で評価できるペーパーテストの在り方の検討や、その工夫を生かすための作問技術の向上を図るなど、評価の信頼性や客観性・妥当性を高めることが必要である。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～思考力・判断力・表現力等を育成する取組～

観点別学習状況の評価を進めるに当たっては、評価規準として「おおむね満足できると判断される」状況（評価B）を想定し、「十分満足できると判断される」状況（評価A）となる学習の状況や、「努力を要すると判断された」状況（評価C）の生徒に対する指導の手だてについて、事前に計画を立て、その取組について決めておくことが必要である。

特に、評価Cの生徒については、評価Bに達することができるよう、授業や放課後の時間等を利用して、随時、個別指導や補充指導を行ったりすることが重要である。

(1) 現代社会

ア 評価計画表の例

【評価計画表（平成16年度高等学校教育課程編成・実施の手引より）】

大項目	(1)現代に生きる私たちの課題			
指導段階	学 習 活 動	評価の観点	学習活動における具体的評価規準	ワークシートの番
課題設定 (1時間)	教師の助言を聞き、課題を設定するとともに、選んだ理由、課題追究学習の計画等についてワークシートに記入する。	思考・判断	自己とのかかわりにおいて主体的に追究できるような課題を設定するとともに、設定に至る過程や課題追究学習の計画等について、適切に記入している。	1 2 3
課題追究 学習 (3時間)	課題にかかわり、どのような資料をどのように収集し、どのように活用するかについてワークシートにまとめる。生徒個々が課題追究を実施し、ワークシートや報告書にまとめ、発表の準備をする。	資料活用 の 技能・表現	収集した諸資料の中から課題と適切に結びつけた資料を選び出し、その活用方法を記入している。	6
		思考・判断	課題追究に役立つ資料を多面的・多角的に考察して、作成している。	4
		知識・理解	資料を活用し、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から課題のもつ背景や問題点について理解したことを記入している。	5
発表(4～5時間)	ワークシートについては、自己評価のみを取り上げた。			9、10
まとめ (1時間)	自分の課題追究学習についての反省や今後の課題等についてワークシートに記入する。	関心・意欲 ・ 態度	自分の課題追究学習についての反省や、今後、取り組んでみたいと考える課題とその理由について記入している。	7 8

ワークシートとその評価方法の具体例

現代社会ワークシート「現代に生きる私たちの課題」 - 課題追究学習 -

1年4組17番 氏名 北海 三郎

下記の課題から調べるテーマを1つ選び で囲みなさい。(1)

地球環境問題

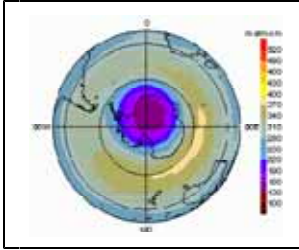
- ・資源・エネルギー問題
- ・科学技術の発達と生命の問題
- ・日常生活と宗教や芸術とのかわり
- ・豊かな生活と福祉社会

選択した課題において、日常生活や日ごろ疑問に思っている事柄や新聞、テレビのニュースなどで見聞きしている出来事などを手掛かりに、具体的に追究したい課題を記入しなさい。また、その課題を追究したい理由を記入しなさい「思考・判断」(3)

具体的に追究したい課題

オゾン層の破壊による影響について

「具体的に追究したい課題」に関する資料(図・グラフ・写真等)を記入または添付しなさい。(2)



その課題を追究したい理由

- ・オゾン層が破壊されると紫外線が多くなって、病気になる人が増えるという怖くなり、調べてみようと思ったから。
- ・これ以上オゾン層が破壊されないようにするためには、どのようなことに気をつけて生活をしたらよいか、政府はどのような対策を考えているか調べてみようと思ったから。

具体的に追究したい課題の調査計画を作成しなさい。「思考・判断」(4)

月日	調査項目	調査・研究内容	調査方法
4/28	フロンガス	フロンガスがなぜオゾン層を破壊するのか。	インターネット
5/2	オゾン層	紫外線が本当に皮膚ガンになるのか。	図書室
5/6	オゾン層破壊対策	オゾン層破壊を防ぐための世界の動きについて	インターネット

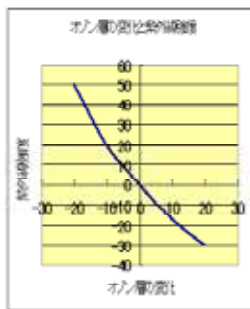
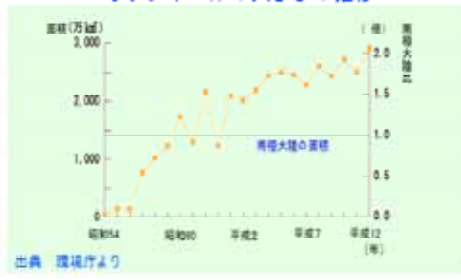
具体的に追究したい課題についてまとめ、それに関する図や表も記入しなさい。

「課題追究したことのまとめ」「知識・理解」(5)

- ・なぜオゾン層がなくなったか?
昔は缶にはL Pガスを使っていたが、L Pガスは爆発の危険があるので、安全なフロンガスが使われるようになった。フロンガスはオゾンと化学反応を起こして、オゾン層をなくしていく。
- ・オゾン層がなくなるとどうなるか?
グラフを見ると、オゾンホールがだんだん大きくなっていく。そしてオゾン層がなくなると紫外線がだんだん多くなっていく。紫外線が多くなると、皮膚ガンや白内障が多くなる。そして、病気だけではなくて地球の異常気象にも影響がある。
- ・オゾン層破壊の解決策
1987年、モントリオール議定書で、オゾン層破壊物質の全廃が決められた。
1997年、京都議定書で、フロンガスなどの削減目標を設定した。

「図・表の記入(添付)」「資料活用」の技能・表現」(6)

オゾンホールの大きさの推移



今回の課題追究を通じて感じた反省点を書きなさい。「関心・意欲・態度」(7)

オゾン層の破壊で自然災害や環境破壊もおこることについて詳しく調べることができなかった。調べる前にまとめの項目を考えておいた方が、調べやすいと思った。

今回の課題追究をもとに、次回はどうような課題に取り組みたいか、書きなさい。

「関心・意欲・態度」(8)

- ・今度はオゾン層破壊に関係する条約についても詳しく調べたい。
- ・U.Vカットの商品がどれくらい売られているのが調べてみたい。

発表(4~5時間)のワークシートについては、自己評価のみを取り上げた。

自己評価 - 自分の発表を評価してみよう「資料活用」の技能・表現」(9)

資料を分析した内容を分かりやすく説明できた。



課題追究した結論を分かりやすく説明できた。



調べた課題に対する自分なりの意見を説明することができた。



発表にあたって、分かりやすい説明をするために工夫したこと。(10)

皮膚ガンになる人が増えてきているという統計や養護の先生に取材したコメントを載せ、自分たちの日常生活にせまる危険性について説明した。また、数値等は見やすいようにグラフや表にまとめ、分かりやすくなるように工夫した。

1 テーマの設定
学習指導要領では5つのテーマの中から2つ程度取り上げることになっているが、ここでは生徒にテーマを1つ選択させ実施した。

2 図やグラフの添付
資料集やインターネット等を利用して、「具体的に追究したい課題」に関する資料(図・グラフ・写真等)を記入または添付させる。

3 具体的に追究する課題の設定
具体的に追究する課題及びその理由については、倫理、社会、文化、政治、経済など多様な角度から追究させるよう指導する。
この生徒は、理由の中で、自己とのかかわりに着目して課題を設定しているため、評価Bとした。
評価Cの生徒には、新聞や資料集等を用いて、身近な話題を提示し、生徒の興味・関心を引き出し新たに追究したい課題を設定させる。

4 調査計画の作成
この生徒は、調査・研究内容を複数の調査方法で調査できるように計画を立てているため評価Bとした。
評価Cの生徒には、個別指導により、資料収集等の方法を考えさせる。

5 「具体的に追究した課題」のまとめ
「具体的に追究したい課題」を踏まえて、多面的・多角的な視点でまとめるよう指導した。
この生徒は、追究した内容についてどのように複数の項目を設定し、取り上げた資料を活用して、まとめているので、評価Aとした。
評価Cの生徒には、生徒が調査した内容を項目ごとにまとめさせ、内容が不十分な点を再度調べさせる。

6 図や表など資料の作成
この生徒は、複数の観点から資料を作成しワークシート5の〜のように資料から考察しているため評価Aとした。
評価Cの生徒には、教師が準備した課題追究に役立つ資料を参考に考えさせる。

7、8 反省と次回の課題
この生徒は、調査方法についての反省点についても〜のように記述され、課題追究を通じて得た疑問点を2点以上記述しているため、評価Aとした。
評価Cの生徒には、課題追究学習の目的や評価規準について説明するとともに、身近な題材を取り上げて、現代社会の学習に対する興味・関心を引き出すよう指導する。

9 () 自己評価
ここでは「資料活用」の技能・表現」についての観点のみで評価を行った。
自己評価内容については、面談法等を用いて、発表の内容や方法等についての改善点等を生徒に考えさせる。

10 () 自己評価
この生徒は、調査した内容を〜のように説得力をもたせたり、取材したコメントを記述したり、グラフや表にまとめたり、わかりやすく表現しようと工夫しているため、評価Aとした。

(2) 倫理

ア 評価計画表の例

【評価計画表（平成16年度高等学校教育課程編成・実施の手引より）】

大項目	(2)現代と倫理	中項目	現代の諸課題と倫理	
指導段階	学 習 活 動	評価の観点	学習活動における具体的評価規準	ワークシートの割
ガイダンス (1時間)	「死」について取り上げた新聞記事についての感想を書く。	関心・意欲 ・態度	新聞記事について、「死」と自己とのかかわりについての考察を通して、現代に生きる人間の死にかかわる諸課題に対する関心が高まっている。	1 - (1)
	自分自身、身近な者、第三者の立場の違いによる「死」の捉え方について考える。	思考・判断	立場の違いによる「死」の捉え方について自分の考えをまとめている。	1 - (2)
	死を考える上で参考になる既習の先哲思想を1つ取り上げる。	知識・理解	死を考える上で参考になる先哲思想について正しく理解している。	1 - (3)
グループでの 課題追究と討 議 (4時間)	テーマの設定とその理由及び課題追究学習の計画をまとめ、発表のための配布資料や提示資料を準備する。(各グループ内でテーマを1つ選び調査項目を分担する。)	資料活用の 技能・表現	グループ内で選んだテーマが抱えている諸課題について整理し、課題追究学習の計画を立てている。	2 - (1) 2 - (2)
		知識・理解	自己の生き方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	3
発表 (1時間)	他のグループの発表内容を記録し、自分のグループのまとめとの相違点や感想・さらに調べてみたいことをワークシートにまとめる。	思考・判断	他のグループの発表について公正に評価を行うとともに、自分のグループの発表に対しても適切に自己評価をしている。	4 5

イ ワークシートとその評価方法の具体例

ワークシート				
倫理「現代の諸課題と倫理」 - 課題追究学習 -				
3年A組15番 氏名 北海次郎				
1 - (1) 「死」について取り上げた新聞記事についての感想 『関心・意欲・態度』				
感想 脳死の判定の実施や臓器提供について、家族の同意だけでできるようにしてはどうかとか、12歳以上にしてはどうかという議論がなされていることが分かった。日本は諸外国に比べて事例が少ないというが、それはなぜなのか諸外国の事例などを調べて、みんなで考えてみたいと思った。				
1 - (2) 脳死移植について、自分自身はどう思うか書く。また、自分が脳死状態になった時に、身近な者や第三者はどのような考えを持つと予想されるか書き、どうしてそう考えたか理由も書く。 『思考・判断』				
自分自身 脳死については自分自身どう考えたらよいかよく分からないところもあるが、自分が死んだとしたら、臓器を必要としている人に自分の臓器を提供してもよいと思う。 【理由】脳死は医学的に死かどうかはまだ自分では分からないが、臓器を必要としている人に自分の臓器を役立てることは自分の生きた証として大切だと思うし、人を救えるから。 身近な者(両親) - 自分の意思を尊重してくれると思うが、決断するまでには時間がかかると思う。 【理由】本人の意思を尊重したいと考えるが、もしかしたら目を覚ますのではないかという思いが強くあると思うから。 第三者 - 自分の意思を尊重してくれる。 【理由】家族と違って関係が薄いから客観的に考えることができるから。				
1 - (3) 「生と死」を考える上で、いま学習した先哲思想の中から参考になる考え方を1つ上げ、その理由も書く。 『知識・理解』				
本来の自己の有限性を自覚して、決断と責任をもって主体的に生きるとき、人間の本来的な生き方が確立されるというハイデガーの思想が参考になった。このことを手がかりに、生きるとは何かを考えてみたい。				
2 - (1) 課題追究学習するテーマとそのテーマを選んだ理由 『資料活用の技能・表現』				
課題追究学習するテーマ	そのテーマを選んだ理由			
安楽死	安楽死にかかわる裁判が日本でも行われており、外国では法的に認められている場合もあるので、このことについてもっと詳しく調べて、問題となっていることについてみんなで考えてみたいと思ったから。			
2 - (2) 課題追究学習の計画 『資料活用の技能・表現』				
月日	調査のねらい等	調査内容等	調査方法等	担当者
1 / 28	安楽死について現状と課題を把握する。	新聞記事をもとに日本の現状や課題、諸外国の事例について調べる。	・新聞縮刷版 ・インターネット	北海次郎 道研太郎
2 / 2	クラス内の安楽死に対する意識傾向を知る。	クラス内でアンケートを実施し集計結果を分析し、全国のデータと比較する。	・アンケート ・集計、分析	道東花子 道南教子 道北育子
2 / 4	班内で討議し、まとめ方と発表方法を定める。	収集した資料をもとに班としての考えをまとめ、発表方法を定める。	・討議	班全員

- 新聞記事に対する感想(1 - (1))
新聞記事については、課題追究学習の導入であることを踏まえ、多面的・多角的に考察できるものを選ぶ。
この生徒は、様々な意見や立場があることを理解し、その背景や解決しなければならぬ課題について調べたいことながら書かれているので評価Bとした。
評価Cの生徒には、新聞記事に様々な考える視点があることを具体的に説明し感想を書かせる。
- 死の捉え方(1 - (2))
この生徒は、それぞれの立場に立ったときの「死」をとらえる視点や感情の違いを適切にとらえて記述しているので評価Bとした。
評価Cの生徒には、自己とのかかわりに着目した具体的な事例を想定させ考えさせる。
- 先哲思想について(1 - (3))
この生徒は、評価は「生と死」を考える上で、どのような内容が書かれているのか具体的な点が書かれているので評価Bとした。
評価Cの生徒には、教科書やノートを参考に今までの授業を振り返らせ、共感した思想をもとに具体的な記述をさせる。
- 追究するテーマと担当(2 - (1))
この生徒は、課題追究するテーマとそのテーマを選んだ具体的な理由についての記述があるので評価Bとした。
評価Cの生徒には、テーマにおいて課題になっていることや調べてみたいことがらを整理させて、テーマ設定の具体的な理由を記述させる。
- 課題追究学習の計画(2 - (2))
この生徒は、〜のようにねらいが明確になっており、様々なメディアを活用した資料収集はもとよりアンケート調査を取り入れる等の工夫もみられるので評価Aとした。
評価Cの生徒には、テーマにかかわる課題を調べたことを中心に調べ方等について助言する。

3 グループ討議の内容 『思考・判断』	
<p>担当者からの発表の内容 安楽死についての現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的安楽死と消極的安楽死について ・日本の裁判事例について ・合法化している国等 - オランダ・アメリカのオレゴン州 <p>クラス内アンケートの集計結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安楽死を認める75% 安楽死を認めない18% どちらともいえない7% ・「安楽死を認める立場」の人の理由としては「自分の意思で決めるべき」がもっとも多く、「安楽死を認めない立場」の人の理由としては「安楽死が認められる基準があいまいで、結局、医師に大きな負担がかかるから」という理由が最も多かった。 <p>全国データ</p> <p>自分が痛みを伴う末期状態の患者になった場合、単なる延命治療について「やめたほうがよい」または、「やめるべきである」と回答した人は、一般国民で74%となっている。単なる延命治療を中止した場合の処置として、一般国民の58.9%は苦痛を和らげることに重点をおく方法をとるべきであると考えている。(H15 厚生労働省調査)</p> <p>討議のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安楽死を認める立場」と「安楽死を認めない立場」賛成派と反対派の意見を十分に尊重した。 ・解決しなければならない問題について整理した。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォームド・コンセントにもとづいた医療と患者の自己決定権の尊重が重要である。 <p>発表方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッション方式で行う。 	
4 各グループの発表内容 『思考・判断』	
グループ名	2 班 テーマ 尊厳死について
発表内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカのカレン裁判について ・リビング・ウィルについて 自分のグループのまとめのの違いや感想 ・課題になっていることが整理されていた。また、安楽死と尊厳死との違いがよく分かった。さらに調べてみたいこと ・個人の意思を確認することが難しい場合（幼児や意識不明の患者など）について
各生徒が自分の班以外の発表内容を記録する。(ここでは1つの班についてのみ記載した)	
5 評価票 『思考・判断』	
グループ名	3 班 4段階評価
発表内容	調査・研究が充実していて、内容が整理されているか
発表態度	分かりやすく説明する工夫がみられ、発表する態度がよい
発表方法	発表するための手段が工夫され、図や資料が効果的である
協力体制	グループ全員が協力して研究や発表をしている
意見や感想(よかった点や改善点など)	いろいろな観点から調べていて説得力があった。自分の班は法律的な分野の調査が不十分だったので大変参考になった。発表方法においてデータを比較するところはグラフや表を使った方がよかった。
評価票は各生徒が自分の班も含め、すべての班の評価をする。(ここでは1つの班についてのみ記載した)	

6 グループ討議(3) この生徒は、担当者が調べた内容について整理され、討議のポイントや具体的な書き方から評価Bとした。評価Cの生徒には、討議の内容が他の人にわかるように各項目について具体的な記述をさせる。

7 各グループの発表内容(4) この生徒は、各グループの発表を整理し、自分のグループのテーマとの関連やまとめ方の違いも把握し、さらに発表内容について十分理解した上で疑問点等の記述もあつたので評価Bとした。評価Cの生徒には、各グループの発表に対して具体的に考えたことや思ったことを記述させる。

8 評価(5) この生徒は、同じ観点で他のグループや自分のグループの比較をしながら評価することを通して、工夫した点や改善点などが整理されているので評価Bとした。評価Cの生徒には、良かったところとわかりづらかったところを整理させ記述させる。

(3) 政治・経済

ア 評価計画表の例

【評価計画表(平成16年度高等学校教育課程編成・実施の手引より)】

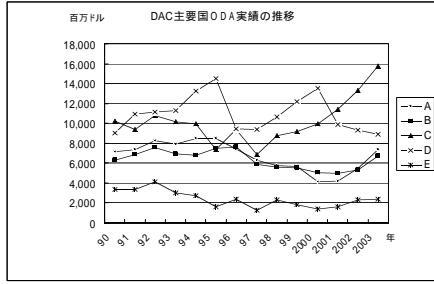
大項目	(3)現代社会の諸課題	中項目	国際社会の政治や経済の諸課題	学習段階
指導段階	学習活動	評価の観点	学習活動における具体的評価規準	学習段階
ガイダンス(2時間)	ワークシートを使用して既習事項を整理し、新しい視点で考察する。	知識・理解	新しい視点で既習事項を見つめ直したことをワークシートに記入している。	1
	ODA事業によるダム建設のビデオを視聴し、ODAについて調べてみたいこととその理由をワークシートに記入する。	関心・意欲・態度	ODAについて調べてみたいこととその理由をワークシートに記入している。	2
調べ学習と中間発表会(4時間)	ODAの諸課題について前時に考えた内容と比較して、ワークシートに記入する。	知識・理解	ODAの諸課題についての見方や考え方が深化・発展した内容をワークシートに記入している。	3
	中間報告会を実施し、収集した資料の一覧表を提出させる。	資料活用 技能・表現	様々な資料をメディアを通して収集し、その収集方法と入手先についての一覧表を作っている。	4
ロールプレイング(2時間)	どのグループの主張が最も説得力があったかを他者評価カードに記入する。	思考・判断	ODAの諸課題について自分と他人の意見の異同を多角的な観点から考察し、ワークシートに記入している。	5
反省会(1時間)	ODAの在り方や課題について新たに考えたことをワークシートに記入させ、それをもとに発表する。	思考・判断	国際社会における日本の立場と役割について様々な考え方を踏まえ、最終的に判断した内容をワークシートに記入している。	6
まとめ(1時間)	国際社会における日本の立場と役割について今後の取り組んでみたいと考える課題とその理由についてワークシートに記入する。	関心・意欲・態度	国際社会における日本の立場と役割について今後取り組んでみたいと考える課題とその理由についてワークシートに記入している。	7

イ ワークシートとその評価方法の具体例

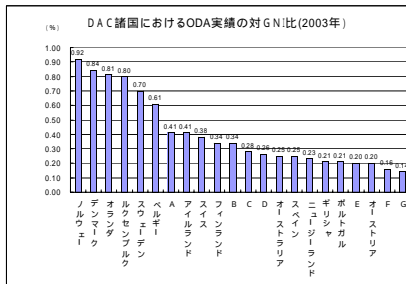
ワークシート		
政治・経済「わが国のODA(政府開発援助)」- 課題追究学習 -		
クラス	氏名	グループ
5	北海 花子	A
1 復習してみよう - 「知識・理解」		
(1) 次のグラフ1は、D A C加盟主要国のODA実績の推移を示しています。A ~ Eにはアメリカ、フランス、ドイツ、イタリア、日本のいずれかが当てはまります。日本に当てはまるものを、A ~ Eから選びなさい。		
		答え <input type="text" value="B"/>
(2) 次のグラフ2は、2003年のD A C加盟主要国の対G N I比を示しています。A ~ Gにはアメリカ、フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、カナダ、日本のいずれかが当てはまります。日本に当てはまるものを、A ~ Gから選びなさい		
		答え <input type="text" value="E"/>

1 復習について
評価Aは3問全問正解
評価Bは2問正解
評価Cの生徒には、解答する際には、わが国のODAの総額は世界の中でも1、2位の金額となっているが、対G N I比では低位に位置することや援助の中心が、アジア、アフリカであることを再度確認し、わが国のODAに対する認識を深めさせる。

グラフ1



グラフ2



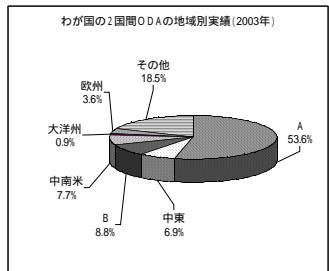
(3) 右のグラフ3は、2003年のわが国の地域別ODA実績を示しています。A、Bはどこ地域ですか。

答え A: B:

2 ビデオの感想とわが国のODAについて調べてみたいこと - 「関心・意欲・態度」

ビデオの感想	住民の生活を向上させるはずのダム建設が、ダム周辺の環境破壊を引き起こし、そこに元々住んでいた住民の生活ができなくなってしまっている現状に援助の難しさを知った。
調べてみたいこと	わが国のODAの現状と改善すべき点について
理由	わが国は、世界でも有数のODA供与国であるが、本当にその国民のために使われているのかを確かめたいから。

グラフ3



3 わが国のODAの課題として気が付いたこと - 「知識・理解」

- ・援助をうけている国のすべての人々の役に立っている訳ではない。
- ・ダムや発電所などの産業関連の社会資本に重点がおかれる傾向にあった。
- ・無償援助の割合を増やしたり、医療や教育などへの援助の割合も増やすことが求められている。

4 資料一覧表 - 「資料活用の技能・表現」

	資料名	発行所	入手方法
1	政府開発援助白書	外務省	外務省ホームページ
2	国際協力便覧	国際協力銀行	道立図書館
3			
4			

5 ロールプレイングにおける他のグループ評価 - 「思考・判断」 4グループで実施している

グループ名	項目 (5点満点)				その他参考になった事柄
	内容	態度	協力度	合計	
B	3	3	5	11	チームワークがよく、個々の分担がしっかりしている。
C	5	4	3	12	ODAの課題についてしっかり調べており、演技が堂々としていた。
D	2	2	2	6	インターネットからの情報収集だけで、内容が不足している。

評価の観点
 「内容」: よく調査・研究がなされ、内容が充実しているか。
 「態度」: 理解させようとする熱意が感じられるか。
 「協力度」: グループ全員で協力し、調査しているか。

6 ODAについて他のグループの発表後、新たに考えたことを書いてみよう - 「思考・判断」

- ・わが国の援助は日本企業がひも付きついていくという批判も強く、贈与の比率を高める必要がある。
- ・援助による開発が環境破壊につながらないか、事前に環境に対する影響を調査する環境アセスメント制度を導入することも必要である。
- ・援助を受けている国の実態をしっかりと見極めてから援助を行わないと、その国民のためにならない。そのため、現地の実態に詳しいNPOとの連携が必要である。

7 今回の学習を通して今後取り組んでみたい課題は何ですか - 「関心・意欲・態度」

- ・世界で活躍しているNPOに、どのような組織があるのかを調べてみたい。また、どのような人が、どのような理由があつて、そこで活動することになったのかを知りたい。
- ・経済的な豊かさだけでなく、真の豊かさを得ることが出来る援助とはどのようなものを探ってみよう。

ビデオの内容
 わが国のODAによってダムが建設されたことにより、停電が日常茶飯事であったこの国の電力事情が大幅に改善された。ダム建設は、特に都市部の住民に大きな恩恵をもたらした。しかし、ダム建設は、現地の自然環境が破壊され、川の魚をとって暮らしていた現住民の生活は立ち行かなくなり、移住を余儀なくされてしまった。ビデオの最後は、無償援助の比率を高めるとともに、医療や教育などへの援助の増額がわが国のODAの課題であるとまとめられていた。

2 ビデオの感想
 この生徒は、〜のようにビデオを見た内容を参考に、調べてみたい理由として、さらに発展させた内容を記入していることから、評価はAとした。
 評価Cの生徒には、ODAについて、生徒にかかわりの深い事柄や身近で具体的な事柄を取り上げて関心を喚起し、ワークシートに記入させる。

3 ODAの課題
 この生徒は、ODAの諸課題についての見方や考え方を深化・発展させた内容をワークシートに記入していることから、評価はBとした。
 評価Cの生徒には、ビデオの内容を振りかえらせ、その中で気が付いたことについて記入させる。

4 資料一覧表
 この生徒は、複数の資料をメディアを通して収集し、その収集方法と入手先についての一覧表を作成しているため、評価はBとした。
 評価Cの生徒には、グループ内の他の生徒と資料収集の方法について相談させるとともに、必要に応じて教員が適切な支援を行う。

5 ロールプレイング
 この生徒は、〜のように自分の経験を生かして他のグループについて、適切に評価し、アドバイスとなることを、記述しているため、評価はAとした。
 評価Cのグループの生徒には、参考になる他のグループの意見を伝え改善点を考えさせ、次回の課題追究学習の改善につながるようアドバイスする。

6 新たに考えたこと
 この生徒は、〜のように今回の学習を通して得た成果をもとにさらに考察し判断した内容を記述していることから、評価はAとした。
 評価Cの生徒には、ロールプレイングを見て、ODAについてどのようなことを考えたのかを振り返らせ、考えたことを記入させる。

7 今後の新たな課題
 この生徒は、〜のように今回の学習を通して、今後取り組んでみたい課題を見だし、さらに新たに考察した課題を記述しているため、評価はAとした。
 評価Cの生徒には、今回の学習を通して、わが国のODAはどうあるべきかを考えたか振り返らせ、考えたことを記入させる。